

地元の謎 児童が調査

松島町の松島二小（児童144人）と塩釜市の浦戸小（児童29人）の児童が地元の謎や秘密などを調べ、成果をコミュニケーションFMの番組内で発表する。松島二小は30日にf mいずみ（仙台市泉区）、31日にベイウエーブ（塩釜市）で放送され、浦戸小は9月10日にf mいずみ、11日にベイウエーブで放送を予定する。

昨年12月に小説「月影に松島」を自費出版した泉区の元会社員ホシヤマ昭一さん（68）が、小説の舞台となった松島湾と周辺の魅力を発信しようと企画した。児童はホシヤマさんが出演、

松島二小と塩釜・浦戸小

制作を担当する番組「月影に松島 小説の舞台を訪ねて」の中で発表する。

松島二小は今年22日に校内で収録があり、6年生の八木楓音君（11）、遠山大悟君（11）、早坂心結さん（12）が参加。住民への聞き取りなどを基にまとめた学区内の「自慢の場所」にまつわる謎を解き明かし、ホシヤマさんに紹介した。

早坂さんは、旧国鉄東北線の松島駅舎だった町健康館デイサービスセンターを紹介。この場所に駅が置かれた理由を「利府の山を下り、品井沼に上る直線道路の中間。当時の蒸気機関車は山越えが大変で、速度を

小説出版のホシヤマさん企画 ラジオ番組で成果披露

上げて山を登るために駅を造った」などと説明した。浦戸小は5、6年生が既に収録を終えている。

ホシヤマさんの小説は祖先の財宝を巡って、主人公が謎を解き明かしていくミステリーで、松島のグルメなども登場する。出版にちなんで地域情報を発信する番組制作を企画。小説の一部を朗読したり、地元関係者にインタビューしたりする30分番組で、f mいずみで今月2日、ベイウエーブで3日にスタートした。

放送時間はf mいずみが土曜午前11時半から、ベイウエーブが日曜午前11時から。アプリ「Listen Radio（リスラジ）」を使えば、放送エリア外の人でも聴くことができる。



番組収録に臨むホシヤマさん（左）と松島二小の児童